

No,51		No.01~ 最新 下部参照	
No,50			
No,49			
No,48			
No,47			

No,46			
No,45			
No,44			
No,43			
No,42			
No,41			

No,40			
No,39			
No,38			
No,37			

No,36			
No,35			
No,34			
No,33			

No,32			
No,31			
No,30			

No,29			
No,28			
No,27			
No,26			

No,25			
No,24			
No,23			
No,22			
No,21			

No,20			
No,19			
No,18			
No,17			
No,16			
No,15			

No,14			
No,13	2024/3/30	<p>1.SparView Vol.22 No.13 1)3D業務の3段階(採取、処理、表示)のうち、表示(ビジュアライズ)の話題と技術革新が盛ん何せ、人間との関わりそのものだから、 2)水系循環の、地球規模のデジタルツイン、なるほど重要だ、 3)箱入りドローン(Drone in a Box)、以前から想定していた通り、急速に発展、 4)無人航空機産業はまだ黎明期、まだよちよち歩き、そう簡単には大きくならない、 5)公共安全用ドローン:日本の先進性期待したが、世界の動きのほうが活発。残念! 6)ドローン市場の拡大のテンポ 期待より遅いが、農業分野だけは別のようなだ。 7)癪であるが、ドローンの大マーケット、中国製DJIが当然集中してくる。 8)人乗ドローン、これも中国製EHangがもつとも経験豊富。日本に拠点開設。</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N13_Visualize.pdf</p>	
No,12	2024/3/23	<p>1.SparView Vol.22 No.12 1)リアリティキャプチャは、さまざまな分野で利用されているが、マーケットとしては、AEC分野が圧倒的に大きい。 2)「箱入りドローンDrone in a box」利用広がる。遠隔、自動化の効果大 3)米国 リモートID 普及に苦勞している。日本も、よほど気を付けないと・・・ 4)ドローン配達の先駆者・巨人 アマゾン 相変わらず苦戦続く、 5)韓国 武器輸出が大きな財源。日本もやれるが、矜持を保ちたい。 6) Terraドローン:米国市場に、徳重さんの世界観・野心 応援、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N12_DroneBox.pdf</p>	
No,11	2024/3/9	<p>1.SparView Vol.22 No.11 1)DroneDeploy:「AEC分野リアリティキャプチャー現状」報告 ほぼ全員ドローン使用、半数が3脚 2)自転車MMS:歩道計測 3)Stonex: X70GO 最新の3D SLAMベース モバイルスキャンと固定モードを組み合わせ、最高の解像度 4)建設業におけるドローン利用進む 5)FAAの手続きの煩雑さと指導力の無さに、業界不満 7)eVTOL Pay-Per-Flight こんなビジネスモデルあり得る 8)SF有権者:顔認識ドローンを承認:国家権力による国民監視強化 9)商用ドローン市場成長? 軍事関係での急激な伸びは、明らかであるが、商用がこのスピードが続くとは思えないが・・・ 10)芝浦工業大学:高度なノイズ抑制技術で捜索救助ドローン改良 11)検査ドローン電源を送電線電界から 誰でも思いつくのが、やっとな実現</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N11_DroneMarket.pdf</p>	

No,10	2024/3/9	<p>1.SparView Vol.22 No.10 1)VRヘッドセット:現場浸透には、まだ人間工学的な課題が多い 2)建設業界へのリアリティキャプチャ 役立つことは分かったので、これから本格普及 3)ドローン業界への投資:急成長から急減 正常な姿に?、 4)ドローン 真夜中でも自動飛行可能になった。 5)福島原子炉:ドローン・ロボット調査難航</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N10_HeadSetVRnotYet.pdf</p>	
No,9	2024/3/3	<p>1.SparView Vol.22 No.09 1)GeoWeek Droneが主役 2)視界外飛行(BVLOS)米国でも普及し始めた 3)インフラ・デジタルツインの効用進む 4)AI付きドローン 当たり前 5)ウクライナ ドローン戦争の様相 6)F1レース:世界最速の撮影用ドロー</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N09_GeoWeek.pdf</p>	
No,8	2024/2/24	<p>1.SparView Vol.22 No.08 1) 地理情報産業(Geo)でのドローンの存在感 ますます増大、 軍事含めて、自動車産業並みになるか? 日本は出遅れた。頑張ろう! 2) 設計と製造のワークフローを結ぶ「インフォームドデザイン」、新しいワード、 3) やっと日本もBIM浸透に追いつきかけた、と思ったら、目標のBIMが激変? 4) 「コンバージェンス(収束)」要はデータ統合に向かうこと、 5) 小形ドローンは、ユーザに近い場所「エッジ」で製造可能。 サプライチェーンの形も変わりますね、 6) ドローン向け小型軽量マイクロジェットエンジン などあるのですね、</p> <p>2 .20周年記念 第20回 3次元計測フォーラム SPAR2024J 5/7,8 http://www.sparj.com 一時、これを機にイベント名を、SparPlaza (交流広場)に、変えていく、との告知しようとした が、愛着のある(?)、呼び名を変えないほうが良い、との意見が寄せられ、第21回 第22回 ..を続けていきます。Pazaは、意見交換・人脈形成を主眼とする各種クラブ活動の総称としま す。</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N08_GeoUp.pdf</p>	
No,7	2024/2/17	<p>1.SparView Vol.22 No.07 1) GeoWeek2024 終了。各種イベント統合し、展示会として確固たるポジション確立。 始めて聞く名前の企業や商品名、まだ発展段階の証拠か、 2) 各種性能競争もさることながら、人間性、人間との関わり方が注目、 3) AIの適用、当たり前になってきた。 4) 軍事ドローン;ますます加速。カネと人が集まる。武器が売れなくなると失業。 平和になると困る人が急増。やりきれない! 5) Skydio :すべての性能で中国製DJIを凌駕している? 本当だと信じたい。 小形普及版では、勝ち目は無い、とGiveUpしたので、できて当然、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N07_WarCrysis.pdf</p>	

No,6	2024/2/10	<p>1)海底地形(等深線:Bathymetry)の重要性が盛り上がってきた。 気候変動対応および資源採掘のため、 2)DJIの3Dモデル編集ソフトウェア「DJI Modify」利用者歓迎 3)スマホで3Dスキャン「Polycam」など:次々出てくるであろう、 4)”インテリジェント”の代わりに”スマート”という言葉が使われることが多くなった(10数年前からであるが・・・) 5)日本ドローン:5Gアクセスで高解像度ビデオ、 視界外飛行BVLOSへのレベル4許可など、この分野で日本が進んでいる面もある。心強い。</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N06_Bathymetry.pdf</p>	
No,5	2024/2/3	<p>1.SparViewVol22 No.05 1) AIが、なじみの薄かった建設業にも随所に、 2) 巨大化するデータファイルへの挑戦 3) ドローン改革: アジア>米国? 4) 完全自動運転(レベル5)は、不要?、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N05_BigDataChallenge.pdf</p>	
No,4	2024/1/27	<p>1.SparViewVol22 No.04 1)都市のユートピア:バーチャルなら自由な発想でトライ 発想転換に役立つかも、 2)FOSS4G 地震リスク評価、日本は OSGeo が窓口 活躍期待、 3)ヨーロッパの統一地籍図 多国間の壁を超える努力、 日本は単一国家 もっと早く進むはず、 4)ACSL 海外で評価、 日本国レベルで応援すべき 鷲谷社長には、SPARJで講演いただいたことあり、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N04_CityUtopia.pdf</p>	
No,3	2024-01-20	<p>1.SparViewVol22 No.03 1) LiDARの利用は、まだまだ広がる。 2) 2024年に注目すべき技術動向 これだけ多くの技術が、一度に普及、目が回りそう、 3) エッジクラウドも流行りそう、 4) メタバース、話題は沈静化したが、着実に広がっていく、 5) 人手不足;AIとロボット利用、当然加速、 6) 原子力電池、昔からあるのですね、半永久的に供給、 7) 個人の人権抑圧、だから中国の新技術開発早い、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N03_NewTechnologyRush.pdf</p>	

No,2	2024/1/13	<p>1.SparViewVol22 No.02 1)点群分類におけるAIの役割 機械学習のさせかたにも、さまざまな工夫があるようです。 原文参照ください。 2)ドローン搭載のRIEGLスキャナー:精度向上 3)インフラのスマート化(高機能・高精度)今ならできる。 4)遺跡の3D保存は、ポピュラーだが、古生物の分野もあるのですね、 5)トヨタも自前技術だけでは、開発スピード競争に勝てない 6)LiDAR、カメラ、レーダーの技術を詳細に比較 掲載2回目。こちらの方が詳しい。 7)米国の中国製ドローン排除の法律: 線路の真ん中に立って、 高速で向ってくる列車に「止まれ！」と叫ぶようなもんだ？ 8)ディズニーパリ:ドローンでスカイ・パレード さすがセンスあり、 9)日本のドローン研究の先生2人登場 鈴木聡 准教授(千葉大学)、島田健二 教授(カーネギーメロン)</p>	
		http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N02_PointCloudByAI.pdf	
No,1	2024/1/6	<p>1.SparViewVol22 No.01 1) シンガポール;都市まるごとデジタルツインで有名。東京もプラトード？ 2) 水路・河川の3Dマップだけでなく、将来は地下水脈のマップも必要では？ 3) 地理大手Esriの3D化は、10年近く前から進んできているが、ついにデジタルツインレベルへ 4) 画像の「ゴースト」問題、日本の優秀な光学機器メーカーが昔から開発していたのでは・・・？ 5) AIの活用、あらゆる業務に。3Dスキャンにも当然、 6) 日本に関わるニュース4本 ①モンゴル配送JUIDA、②日米でAIとUASの共同研究、③NASA と JAXA 共同で災害復旧、④僧侶ドローンレース！ 7) ドローン配送2024に・急増・ハイブは去ったがゆったりと、 恐らく両方とも正しい</p>	
		http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N01_Japan.pdf	